

教育課程編成委員会 第1回議事録

日時：2017年8月22日(火) 18時30分～20時00分

場所：東京 YMCA 医療福祉専門学校 15 教室

出席者： 白井幸久氏 三沢幸史氏 望月太敦氏 小檜山修平氏
八尾 勝 中浦俊一郎 倉持有希子
列席者： 中村由美 品川智則 林 恵子 村上剛

I. 聖書日課 ダニエル書1章9節 八尾

II. 議事

1. 委員会の進め方の説明

八尾氏よりアジェンダに従って委員会の進め方と資料の確認がされた。

2. 委員自己紹介

出席委員及び列席者が自己紹介と近況報告をした。

3. 委員長（議長）選出

白井氏を八尾校長が推薦。全員一致で決定。

4. 部会に移動

介護福祉科の部会：白井氏、望月氏、倉持、品川

作業療法学科の部会：三沢氏、小檜山氏、中浦、中村、村上

部会に分かれ、7時30分まで（約50分間）介護福祉科と作業療法学科それぞれで話し合いを行った。

学科長から2017年度の学科のカリキュラム全体の姿の説明と今年度の工夫や力をいれている部分の説明を行い、その後、委員から意見、質問をいただきながら話し合いを進めていった。

5. 部会報告

※それぞれの部会の詳細な記録は別紙に記載。

1. 介護福祉科 倉持学科長より部会の様子の要約が報告された。

- ・ボランティア活動を今年度は教育目標の中に明確に位置づけた（1年生の時から外部で活動することや、自主的に課題に取り組む姿勢を身近なものとして学生が捉えることができるようになるために）。
- ・学生自身が自分で考え、行動できるよう学習マップに沿って授業を進めてゆく。

2. 作業療法学科 中浦学科長より部会の様子 요약が報告された。

- ・2018年度のカリキュラムは全体的には現在より授業数を減らし、学生が余裕をもって課題に取り組めるよう変更する。
- ・実習においては、「模倣」に力点を置く。
- ・学生の学ぶ技術力の向上を図ってゆく。
- ・地域での包括的なニーズ対応能力のある人材の養成も考慮して、授業を進めてゆきたい。

次回の委員会日程

2017年10月11日（水）18：30時～

記録 村上剛

2017年度 第1回教育課程編成委員会・部会（介護福祉科部会）記録

出席者：白井幸久氏 望月太敦氏 倉持有希子 品川智則

進行：倉持有紀子

記録：品川智則

1. 教科の概要について

1) はじめに

現在、学生数の減少が大きな課題となっている。学生数が少なくなっているが質を落とすことなく、維持できるようにしている。

2) 学習マップについて

人間と社会の領域での必修選択についての説明（手話、就職、家政学実習、学習支援演習がある）。学習支援演習では通常のホームルームの枠を超えた位置づけで実施している。学年ごとに年間の目標をかかげ、学校行事、日々の日直などを通して、介護福祉士としての土台である、チームワークや社会人としての基礎力などを身につけられるようにしている。また、さまざまな教材などを活用し介護福祉士に求められる幅広い視野をもてるような授業を行っている。

3) 地域との連携について

昨年度に引き続き、夏まつりでは、地域の社会福祉法人やボランティア団体に参加して頂き、地域に開かれた夏まつりを実施した。授業の中でも、地域とつなげられるような授業を実施した。介護の基本授業内（2年生の前期）で利用者理解を深めるための授業を実践している。その際、地域で生活する障害をもつ当事者に方に来てもらい、講義を行った。また、副校長のこれまでの仕事の経験（地域交流、多世代交流など）からの話から地域とつながりについて学ぶ機会をもった。

4) ボランティア活動について

1年生の学年目標の中に、ボランティアへの参加を明確に位置づけた。ボランティア参加への働きかけとして以下の内容を主に学習支援演習の授業内にて実施している。

- ・ボランティア活動の意義と目的
- ・施設から以来のあるボランティア活動の内容や、参加することで経験できる内容
- ・被災地ボランティアではこれまでの実施内容をスライドなど紹介

また、授業外でも、ボランティア活動に参加するにあたっての相談などを学生に対して個別に行っている。

5) 国家試験対策

現在、さまざまな形で、国家試験対策を実施している。1年生のときから、働きかけを行っている。主に国試概要について説明、基礎的な問題や模擬試験を実施、グループ単位で国試対策の実施などを行っている。2年生になってからは、国試対策の委員会をつくり、グループごとに自分たちで勉強する機会を学習支援演習の授業内や、空き時間に実施している。夏休みには、4日間の集中勉強会を実施した。その後の実力試験では一定程度効果が見られた学生も多くみられ、勉強に対するモチベーションアップにもつながった。一方で、結果が伴わない学生もいた。そのような学生に対してどのようにアプローチをしていくかが課題となっている。

2. 質疑応答・意見交換

現場から学校に期待する事・教育課程への意見

1) 白井幸久氏

(1) 学力の低下の課題について

学生の基礎的な学力の低下といった課題の中で介護福祉士にとって必要な内容にどうつなげていくかが共通の課題となっている。基礎的な学力に課題がある学生に対しての対応を学習支援演習で継続して実施してほしい。

(2) いのち演習の授業について

「いのち」というテーマだけでなく、さまざまな分野の専門家に来てもらい、人とかかわる介護福祉職としての視野を広げることにつながっている。

質問：いのち演習の学びが生活支援技術の内容につながっているか？

倉持：意図的につなげることをしていないが、生活支援技術、介護過程の授業内では、ICFの視点でアセスメントする機会を実施しており、生活という視点をつねに意識して授業を行っている。

(3) 介護過程について

学習マップから介護過程の科目が実習などと連携して位置づけられているのがよく分かった。

質問：ケースマネジメントなどの新たな考え方などについて介護過程の展開は全体に必要な
であるが、科目間（介護過程の科目同）の連携や連続性があるのか？

倉持：介護過程Ⅰでは基礎的な部分を学び、介護過程Ⅱ、Ⅲでは、事例を通して発展的に積み重ねるようにしている。

質問：ICFの主軸が他にあって介護過程の科目に活かしているのか？

倉持：介護の基本ⅠでICFを学び、介護過程の授業のショート事例などの活用し実践を通してICFの視点を用いた介護過程について授業を実施している。

(4) 介護福祉士の基礎的知識を学ぶ領域について

学習マップからそれぞれの科目が連携をしているのがよく分かる。YMCA独自の学習支援演習の授業や、キャンプの授業、ボランティア活動などが介護福祉士として基礎的知識を担っていることもよく分かった。学習マップなどでは、それらの内容が土台となって、様々な科目につながっているということを示せると、良いと思う。

2) 望月太敦氏

(1) 卒業生が就職

今年度、YMCAの卒業生が就職してきたが、その子からの印象で2年間通してたくさん
のことをきちんと学んできたんだなと印象を受けている。

(2) ボランティアの経験について

質問：ボランティア活動に参加することで何か学生に良い影響はありましたか

品川：ボランティア活動に参加した学生に感想などを聞くと、介護の仕事のイメージや、
施設のイメージなどがまたいい意味で変わったという意見や、高齢者分野で働こう

と思ったけど、障害者施設のボランティアをして、視野が広がったという意見などがあつた。ボランティア活動に参加することであらたなモチベーションや新たな自分にきづける機会となっているのではないか。また、石巻災害復興ボランティアなどでは、たくさんの被害があつた地に赴くことで、改めて、介護福祉職として生きるということの意味を考えなおす機会ともなっている。

ボランティアでは様々なことを経験できとても貴重な場となる。その中で、上記のような内容の経験だけでなく、ボランティア活動を通して、利用者や施設などがどのように地域とつながっているのか、どのような職種が連携をとっているのかなどにも気づけ学べる機会となるとさらに良いのではないかと感じた。

以上

2017年度 第1回教育課程編成委員会・部会（作業療法学科部会）記録

出席者：三沢幸史氏 小檜山修平氏 中浦俊一郎 村上剛 中村由美

進行：中浦俊一郎

記録：中村由美

1. 教科の概要について

1) カリキュラム全体の流れ

教科概要参照して説明。来年度から基礎科目に関してスリム化していく。

学生の質、許容量から今の状況に合っていない。

専門分野、特に地域、環境整備、OT 技術的な分野は増やしていく。

学生は文章が書けない。レポートの書き方なども模倣してでも書けるようになってほしい。

作業療法総論で模擬患者を用意してレポート指導をしていく。

2) 国家試験対策

国家試験合格率6割であった。原因は、学習の方法については学生に伝えていたが実際の進捗状況のチェックが不十分であったと感じている。そこまでしなくてもという葛藤もあるが指導の変革が必要と考えている。グループ学習により孤立しない、学びあう・教え合う環境を作る。個人で取り組みたい個人については臨機応変に対応している。昨年度末に3科目模試。(1・2年生)模試の回数を増やして現状を知ってもらうこととした。1・2年生から学生の意識を高めてもらう。3日間の既卒者・3年生の集中講座を現在は行っている。

3) 授業の課題

専任教員からの時間外課題(宿題など)を無くしている。時間にゆとりをもった学習ができるよう工夫している。アルバイトに走る子もいるが、自主的に学習に取り組む子もいる。授業内で課題を行う方向をしばらく継続していく。

4) 実技について

まずは「模倣」によって、できるようにすすめている。

事前の準備の充実により、昨年度より実習中のトラブルは少なくなった。

5) 縦割り班

前年までは、学生にすべて任せていたが、教員サイドでテーマを作って運営していくようにした。

6) 実習評定表について

「評定3」を「模倣が出来る」とした。このことは、具体的にSV会議で実習先の指導者に伝えている。より分かりやすい評定表、実習の手引きになるよう改訂していく。

7) 退学者

今年度はまだ退学者を出してはいないが、すでに前期試験を落としている学生がいる。学生の努力が足りないというだけでなく、教員の関わり方に工夫の仕方があるのではと考えている。ご意見を頂きたい。

8) スローガン

今年度からスローガンを4つ掲げた。①健康、②勉強の仕方、③約束を守る、④コミュニケーション

ョン。教員側の指導方法の統一が必要である。

9) 学生のモチベーション

学生の振り返りが全体としてはまだ終了していないが、個別には関わりを持っている。退学したいという意志を持つ学生もいるのでよく話し合う機会を持つ。

2. 質疑応答・意見交換

小檜山氏：模倣で学生の技術を高める。学生の理解度、満足度はどうか？

中浦：学生は考察が難しい。情報を取り込め切れていない。模擬患者を立てて、掘り下げていく時間を多く設けた。実際に提示してトップダウンで掘り下げていく。

小檜山氏：自分で考える範囲が狭まる印象があったが、そこから広がれば良いのかもしれない。

中浦：そのリスクも考えたが、ひとつでもわかることがあれば、武器を持っていられたらと思う。

三沢氏：「専任教員は時間外課題を出さない」という事で自主的な学習が見えたということは良かった。昔はみな良く放課後の学内で練習している学生を見かけたが、ある時から見なくなった。自分たちから学ぶ姿勢が必要。教科の中でうまく引き出せればよい。それがまた自主的な学びにつながることは大事だと思う。

中浦：具体的な疑問を持たせることが大事だと思う。疑問を解決しようとする姿勢。そして誰かに対応できる体制が必要。忙しく対応しきれない事もあるのが現状。

三沢氏：忙しいのはお互い様。勉強会をたくさんやって充実させてきたが、個々のセラピストの自己研鑽が必要。自主的に自分たちで外部から情報を取り込んでいかなければいけない。学生の内から自主的に取り組めるよう指導できればよいのではないか。

小檜山氏：自分自身が学生の時は、武器もなく実習をがむしゃらに頑張った臨床に出てから選択肢が広がった。

中浦：教員が学んでいる実践をみせていかないといけないのかな、という実感がある。

小檜山：模倣からのプロセスは学生に「見える化」して、ゴールまで見せられるか。アプローチの経過の「見える化」が必要。自分がどこにいるかの安心感が必要。

中浦：学生との連絡がうまくいかなかったり、学生の欲する情報に気づききれずにいることも多い。コミュニケーションの取り方の工夫が必要。授業の仕組みに関してもつながりなど伝えている。

3. 現場から学校に期待する事、教育課程への意見

三沢氏：勉強の仕方の工夫についてはぜひ続けてほしい。最低限の技術の習得方法を伝える。学生の中で少しずつでも理解出来ればよいのではないか。

中浦：「見える化」に加え、「気づき化」も必要かもしれない。

小檜山氏：作業に関する認識を理解する評価法がある。最初は認識なかったが、認識できるようになり、最終的には安心してできる。

三沢氏：地域生活から共生社会へ。学生たちは今後、高齢者、障害者、発達、そこに対応できる事が

必要。多様な人々が共生する世の中を常に意識するようにすることが大切。

小檜山氏：ケアマネジャーのリハビリテーションへの理解がもっと必要であろう。

中浦：ワークショップの資格取得も念頭におく。共生社会実現のために、具体的にどう共生していくか。学生とディスカッションしてゆき、理解を深めたい。

以上